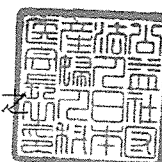




日産婦医会発第255号  
平成27年10月29日

公益社団法人日本産科婦人科学会  
理事長 藤井知行 殿

公益社団法人日本産婦人科医会  
会長 木下勝 殿



「Baby+お医者さんがつくった妊娠・出産の本」について

平素から本会の運営等につきご協力ご指導等を賜り感謝申し上げます。

出産世代にフォーカスをあて、妊婦さん向けに、妊娠等に関する正しい知識の普及のために、貴学会監修による小冊子を作製されておられることに深く敬意を表しています。

このような背景の下で、配布されました「Baby +」に関して、多くの医会・学会会員である産婦人科医師より、その内容の一部に、学会の考え方としては承服できない、との声が寄せられております。

特に、P20の「産む施設の選び方」に関する記載です。

- ① リスクがあるなしは、原則的には医師が判断することであって、妊婦に判断できるはずがありません。妊娠したかどうか、近くの産婦人科に妊娠診断を求めていくのが通例であり、リスクをはじめから考えて病院を選ぶのは例外的な妊婦に限ります。
- ② 自分の状況を点数化して、その総和でリスク度を計算して分娩施設を選ぶなどの発想をする妊婦がいれば、それは間違いであり、本来医師が判断すべきことです。したがって、当然「産婦人科医によく相談してください。」と記載すべきです。
- ③ 助産所と個人診療所、個人病院が同列に扱われていることは、医師の間にはきわめて大きな違和感があります。

- ④ 個人病院と市民病院、産科専門病院などと、医療の質の点で差をつけることは不自然であり、個人病院であっても市民病院以上の妊娠分娩管理をおこなっている施設は数多くあります。
- ⑤ それぞれの個人病院や診療所では、それぞれの医師の判断により、自分の施設で管理できる妊婦かどうかに関して、様々なリスクを考慮し、冷静に慎重に判断し、お願いする必要を認めれば上級病院にご紹介をし、それぞれがふさわしい妊娠分娩管理を行っています。
- ⑥ その実態からしますと、記載の内容のように点数で断定的に妊婦を振り分けることはしていませんし、それぞれの妊婦の状態により現場の医師の判断に任せていることに、今日まで不都合を認めませんし、妊婦にも全面的に受け入れられています。
- ⑦ 勤務している場所にかかわらず、医師は基本的には、同じように適切な研修を行い訓練をし、臨床経験を積んできており、対等であります。  
あたかも、一次施設はレベルが低いと誤解されるような記述になっていることは、これだけ日本の産科医療に貢献している診療所、あるいは個人病院担当者にはきわめて不本意です。  
しかも、日産婦学会が、あたかもリスクの判断も医師が行うのではなく、妊婦に頼るのが望ましいような妊婦向け指導書にすることは、医会・学会会員である医師にとっては承服しがたいことです。

以上、大変大きな影響力のある日産婦学会監修ですから、それぞれの医師の判断を尊重する姿勢がわかる記述にさせていただき、現場の医師に誤解を招かぬ配慮のある記載をお願いいたしたく存じます。

本来、日産婦医会の姿勢として、会員に資する日産婦学会の事業に関して、全面的に協力することを考えております。しかし、上記の項目に関しては、医会・学会会員に誤解を招く内容でもありますので、この件に関し、善処をお願いいたしたく存じます。